

7月6日(水)に海外研修員10カ国11名が、国土交通省富士砂防事務所が実施している「大沢扇状地」を視察しました。

残念ながら富士山は見えなかったものの、床固工や岩樋観測所を視察するとともに、UAVによる操作体験もしていただいた。

参加者からは、大沢崩れで、昨年1年間に、17万m³崩落し、それは日平均にすると大型ダンプトラック90台分であったことについて驚きの声があがった。

◆日 時 : 平成28年7月6日(水) 15:00～16:30

◆場 所 : 大沢扇状地(富士宮市上井出)

◆参 加 者 : モザンビーク、アゼルバイジャン、トルコ、フィリピン、ネパール、マレーシア、バヌアツ、ガイアナ、ペルー、チリ 10カ国11名



UAVによる操作体験



第5上流床固工での説明状況



第5上流床固工の視察状況



岩樋観測所下流での視察状況

※本研修は、5月16日(月)～7月15日(金)の期間(62日間)に独立行政法人国際協力機構(JICA)関西国際センター主催で行われる「インフラ(河川・道路・港湾)における災害対策(A)」研修で、研修員が実践的でより効率的・効果的なインフラ(河川・道路・港湾)における災害の抑止・軽減そして復旧対策技術を習得し、アクションプランを作成、所属組織に提案する目的で行われています。